教育旅行（修学旅行）レポート

多感な中学生にとって教育旅行（修学旅行）は学生時代の一大イベントだ。楽しみでもあり、また不安でもある。非日常の場に身を置き、その土地ならではのものに触れ、見て、人と接することで視野が広がることもある。ここでは充実した教育旅行（修学旅行）を実施する２校の取り組みを取り上げる。

和歌山市立加太中学校
和歌山県紀南方面1泊2日 20年9月24、25日実施

コロナ禍で県内に変更 郷土愛と深い友情育む

神﨑信彦学校長

和歌山市立加太中学校（神﨑信彦学校長）は、古くから港町として栄えてきた、同市北西端の加太地区に位置する学校だ。近年は少子高齢化の影響により生徒が減少し、ピーク時に400人を超えた生徒数は、現在わずか24人。そこで少人数であることを生かし、きめ細かな指導や、生徒と保護者、教員、地域が一体となった教育を実践。生徒の保護者の多くが30年ほど前にも10年以上同校に勤務していた神﨑校長の教え子ということもあり、家庭との間の風通しも良く、地域ぐるみの家族的な雰囲気での教育が同校の特徴となっている。

「修学旅行は3年間の学びの集大成であると同時に、生徒にとって非日常の場で学べる貴重な機会であり、一生の思い出作りの場でもある。幼稚園からほぼずっと一緒に育ってきた兄弟のような生徒たちが卒業を前に友情を深めることも大切な目的の一つだ」と神﨑校長。

同校では毎年、東京方面で2泊3日の修学旅行を実施。東京スカイツリー～5月の休校により、4月に延期が決定。6月の学校再開の後、7月中旬を実施。東京スカイツリーや浅草などの定番スポットを訪れるだけでなく、陸奥宗光元外相が和歌山出身であることから外務省を訪問したり、紀伊徳川家出身の徳川吉宗にゆかりのある東京都港区の区立赤坂中学校と学校間交流をしたりしてきた。

昨年度も、例年同様6月上旬に東京方面への修学旅行を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響による3